

リレー随筆

奄美大島の野鳥観察日記

県立大島病院 初期臨床研修2年 竹内 一輝

はじめに

初めまして。今回リレー随筆を担当させていただきます県立大島病院初期臨床研修2年目の竹内一輝と申します。見苦しい部分もあるかと思いますが、最後まで読んでいただくと幸いです。

私は、鹿児島大学病院の桜島プログラムのたすきがけで県立大島病院に、2021年1月から6月までの半年間研修させていただくことになりました。折角来たからには奄美大島でしかできないこと、特に自然を楽しみたいと考えていましたが、あいにく季節は冬でマリンスポーツは断念することにしました。何かないかと探していると、奄美の冬は野鳥観察のシーズンだという記事を目にしました。地理的な要因で奄美群島を含む琉球列島の島々は、多くの渡り鳥の中継点になっていること、その渡り鳥の多くは越冬のために訪れる冬鳥であるということ、大陸からの迷い鳥が多いことがその理由とのことでした。海だけでなく奄美の魅力があることを知り、経験ゼロ知識ゼロでしたが野鳥観察にトライしてみることにしました。

とりあえず森へ

近くのホームセンターで双眼鏡を購入し、まず選んだ場所は『奄美自然観察の森』でした。バードウォッチングのメッカで、特に冬は巣作りをするために枝を運ぶルリカケスを見ることができるということで、非常に魅力的だと感じました。わくわくする気持ちで友達と二人で森に到着し、たくさん鳥を見るぞと意気込んでいましたが実際はそううまくは

いきませんでした。まずどこに鳥がいるか見つけることが大変でした。当たり前ですが、動物園のように決められた場所にいるわけではないので、左右上下どこにいるのか探さないといけません。目が慣れていないため、発見した時には逃げられていることがほとんどでした。加えて森の中は草木で隠れている場所が多く、何かが動いていることが分かって、鳥かどうか分からなかったり、鳥だと分かって逃げられたりすることが多く、なかなか観察ができませんでした。そんな中、茂みの中の地面でガサゴソ動く影を見つけ、恐る恐る近づき双眼鏡をあてて見てみると、地面で採食している野鳥を見つけることができました。後から調べたところ、その鳥はシロハラといって大きさは25cmほどでその名の通り腹部が白く、地面で食べ物を探す習性があるため、マングースに襲われやすく、冬のマングースの主食になっているという鳥でした。シロハラが食事に夢中になっていることもあって逃げられることなく、シロハラの食事を眺めることができました。見つけてからそっと近づき、静かに見守るという、興奮しつつも抑えて行動するという感覚が新鮮でした。やっと野鳥観察ができてほっとした私たちはいったん休憩し、展望台で一休みしました。少し風が強くて寒かったですが、目の前に広がる龍郷湾は絶景でした。景色も堪能し帰ろうとした矢先、出口の近くでルリカケスに会うことができました。見ることができてうれしかった反面、完全に油断していた中現れたので、もっと注意していればじっくり見ることができたかもしれないと惜しい気持ちに

もなりました。

その後、初心者は湿原から野鳥観察を始めるのがおすすめとの記事を目にし、田園や湿地帯にポイントを移しました。森や茂みが少ない分、初心者でも野鳥を観察しやすく、水辺のサギやカモをゆっくり観察することができました。帰りの林道でも、キセキレイやイソヒヨドリなど色々な野鳥を見ることができて満足な一日でした。

写真が撮りたい

初めての野鳥観察でいろいろな野鳥を目にすることができて満足した私ですが、見るだけではもったいない、写真が撮りたいと思うようになりました。近づいて撮影することは困難なので高倍率のカメラが必要なのですが、持っていなかったため、スマートフォンに外付けでつけられるレンズを通販で購入し再び、奄美自然観察の森に向かいました。その日はヒカンサクラが咲いており、たくさんのお花見を楽しむ人の姿が見られました。人がいたためあまり野鳥の姿はありませんでした。そんな中、ヒカンサクラに目を向けると小鳥の群れを発見しました。近くに行ってみると、メジロの群れがヒカンサクラの蜜を吸



ヒカンサクラの蜜を吸うメジロ

いに訪れていました。これはシャッターチャンスだとカメラを合わせ、お気に入りの一枚を撮影することができました。

おわりに

実際に野鳥観察を体験し、やってみないと分からない発見が多くて楽しかったです。野鳥を見つけるまでの待つ時間が長いため、思ったより忍耐がいること、ふとした時に現れたり逃げられたりするため一喜一憂があること、興奮を押し殺す感覚どれも新鮮でいい経験になりました。加えて、想像より盛り上がったのが図鑑での野鳥の確認です。「今のはお腹の色が白いからこの鳥なんじゃないか。」「生息域から考えたらこっちじゃないか。」「大きさから考えたらこっちもあり得る。」などと友達と話しが尽きませんでした。また図鑑があれば生息域や鳴き声から野鳥のポイントを推測することができて宝さがしみたいで面白かったです。

野鳥観察をしてから鳥の声を気にするようになりました。特に朝通勤する際は、野鳥の鳴き声が聞こえることが多く、さわやかな気持ちになりますし、無意識に鳥を探して空を見るので前向きな気持ちで通勤することができています。

この文章を書いている5月現在、奄美大島が世界自然遺産に登録を勧告されているとニュースになっています。豊かな自然に触れることができるとても貴重な経験ができたなと思いました。奄美大島の自然がこれからも守られ、魅力が多くの人に伝わることを願ってこの随筆を終わりにしようと思います。

ここまで読んでくださった方々、つたない文章ではありますが最後までお付き合いいただきありがとうございます。

次号は、今村総合病院 榎田唯人先生のご執筆です。
(編集委員会)